



学校だより

令和元年 11 月 29 日
横浜市立豊田小学校
12月号

豊田小学校ホームページアドレス <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/toyoda/>

「対話」する力

人間の尊さ、可能性が色彩豊かに浮かび上がってくるように

学 校 長

お掃除の時間、同じクラスの6年生児童2人との対話です。

2人は、ぬれた雑巾を手に持って、黙々と水飲み場を綺麗にしていました。

「2人は、中学校は、どうするの。」「別々です。」

「あっ、そうなんだ。でも、今の友達って、とても大切だし、これからも連絡を取り合って、大事にしていってほしいな。」

「はい。ホントにそうしたいなって、思っています。」

「中学校に行ったら、また新しいお友達ができるし、友達って人生の宝、財産だと思うよ。ところで、さっき教えてくれたけど、君は、なんで、理数系が好きなのかな。」

「何かと何かを組み合わさって、まったく新しい別のものができるというか、そこが、とても、面白いなって。」

「そうなんだ。化学反応するということか。それって、(もう一人の児童に)君も何か同じようなことを書いていたよね。地域で募集があった『あいさつ標語』をつくったあと、『2人で意見を出し合って考えた言葉を組み合わせでつくったものが選ばれて嬉しかった』って。」 「はい。」

「1人の力だけでは、決してできないことを、対話の力って、想像もしていなかったような、何か新しいものをつくり出していける力というか、そんな可能性を秘めているような気がするんだよ。」 「はい。」

その時、児童2人の顔の表情が心なしか明るくなり、今まで感じたことのないような新鮮な感情が、2人の間に流れていたように感じました。

「対話」を強調した人物と言えば、物理学者デヴィッド・ボームの晩年の研究テーマが「対話」でした。ボームによれば、対話にあたる「ダイアログ(dialogue)」の語源は、ギリシア語「ディアロゴス(dialogos)＝言葉を通して」であり、ダイアログの本来の意味は「二つの岸の間を流れる川のように、意味が間を通り、移動していくこと、人と人との自由な意味の流れ」で、個人的にはアクセスできない、より大きな「共通の意味の集積」にアクセスすることができる

と述べています。

あっ、そんなことを考えていると、

「校長先生！入って、お話をしたいですか。」

中休みの時間に、ある児童がしっかりとあいさつをして、「校長室」に入ってきました。

さてさて、どんな「対話」になるのでしょうか。

～12月人権週間に寄せて～